

2025年7月実績概要（メモ）

（2025. 8. 21）

定修による能力の落ち込みも薄らぎ、多くの製品で前月に対し生産の伸長が見られる。

1. 生産動向

イ) エチレン 388,400トン

前月比 + 8.7% (+31,200トン)

前年同月比 ▲ 2.4% (▲ 9,800トン)

生産増減に係る諸要因	<前月比>	<前年同月比>
日数増減	+ 3.3 %	—
定修要因等	+ 0.5 %	+ 5.4 %
能力増減	—	—
稼働率変動	+ 4.9 %	▲ 7.8 %
生産増減率	+ 8.7 %	▲ 2.4 %

稼働プラントの実質稼働率試算：前月 74.8%* → 当月 77.7% ← 前年同月 82.9%

定修プラント：前月 2社2プラント → 当月 2社2プラント ← 前年同月 1社1プラント

ロ) 主な石油化学製品

前月比は、日数の増加に加えて定修規模差等から、LDPE、HDPE、PP、PS、塩ビ樹脂、塩ビモノマー、MMAモノマー、EO、EG、キシレンなどの13品目がプラス。AN、BRなどの4品目はマイナスとなった。

前年比では、定修規模差等から、LDPE、HDPE、PS、MMAモノマー、EO、EG、AN、SBR、トルエンなどの12品目がマイナス。PP、塩ビ樹脂、塩ビモノマーなどの5品目はプラスとなった。

2. 樹脂の生産・出荷状況（LDPE、HDPE、PP、PS）

イ) 生産

前月比は、日数の増加と定修規模差や稼働率要因から、LDPE、HDPE、PP、PSともにプラスとなった。

前年比は、LDPE、HDPE、PSは定修規模差等もありマイナス。PPは定修規模差と稼働率要因からプラスとなった。

ロ) 国内出荷

消費動向は、総じてマインド自体は持ち直しの動きが続くものの、暮らし向きや耐久消費財の買い替え等の面では前月より弱含む動きが見られている。国内の生産活動は、7月の予測では、電子部品・デバイス関連を中心に増加が見込まれているが、生産活動のトレンドは幾分伸び悩む場面も見られている。

汎用樹脂の国内出荷は、前月に続いて4樹脂ともにプラスとなったが、前年比では、LDPE、HDPEはマイナス、PP、PSはプラスとなった。

分野別の出荷状況は、フィルム等の包材関係では、前年比でLDPE、HDPE、PSはマイナスとなったが、PPのみは僅かに前年を上回った。包材以外の分野では、ポリオレフィン3樹脂は前年比でLDPEは射出成形分野、PPは射出成形分野に加えて中空成形分野がプラスとなったが、これら以外の分野ではほとんどが前年を下回ることとなった。一方、PSは、電機・工業用分野、雑貨・産業用分野、FS分野ともに出荷増加が見られた。

ハ) 輸出

輸出環境は、米国による相互関税の適用停止期限を目前に控え、各国との交渉が進められる中、先行きを見極めようとする動きから取引は低調となっている。輸出数量そのものも振るわず、前月比はLDPE、PSがプラス、HDPE、PPはマイナス。前年比は、LDPE、HDPE、PPともにマイナスとなった。

ニ) 在庫

在庫量は、前月に対して、LDPE、HDPE、PP、PSで減少した。在庫率(季節調整済)は、LDPE、PP、PSで低下、HDPEのみは前月並みとなった。在庫水準としては、LDPEは高め、HDPEは極めて高め、PP、PSは適正方向に向かいつつある。

	前月対比増減量 (単位:トン)	季節調整済在庫率 (単位:ヶ月)	
		6月末	7月末
LDPE	▲ 14,300	3.8	3.5
HDPE	▲ 12,200	4.5	4.5
P P	▲ 28,700	3.4	3.1
P S	▲ 4,600	2.2	1.7

前月からの修正を*で付記

以上